

稲・大豆作情報 (NO.10)

1. 水稲作況情報田の生育概況(9月3日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	SPAD	
夢しずく 佐賀市 本庄町	6/16 17.6株/m ²	本 年 平 年 平年比	出穂期 8月17日 (平年より2日遅い)				【夢しずく】 糊熟期～黄熟期
さがびより 小城市 芦刈町	6/20 17.7株/m ²	本 年 平 年 平年比	101.2 - -	333 - -	14.2 止葉葉位 -	33.8 - -	【さがびより】 出穂走り
ヒヨクモチ 小城市 牛津町	6/28 20.1株/m ²	本 年 平 年 平年比	75.0 82.1 (91)	507 483 (105)	15.6 16.4 (-0.8)	40.1 36.9 (109)	【ヒヨクモチ】 穂ばらみ期

注1) 各品種 前作：麦、前前作：水稲。

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる。

2. 水稲管理

○今後の水管理

- ・冠水した圃場は、退水後速やかに新しい水と入れ替えたのち、一旦落水して土中に酸素を供給する。また、長期間湛水状態となっている圃場も多く、今後も不安定な天候が見込まれるため、浅水または落水管理を徹底する。

1) **いもち病** 現在の発生量は平年並みとなっているが、局所的な発生が確認されている。

病斑が多い圃場は、天候を見計らって防除を実施する。

2) **トビロウカ** 平年よりやや多い状況である。発生予察によると9月2～5日頃が、防除適期（トビロウカ各世代の発生予測第6版 2019年8月22日作成より）となっているが地域品種により異なっているため地域 JA の発生状況を参考に防除を行う。また、防除の際は湛水するとともに株元まで薬剤が十分かかるよう丁寧に散布する。

3) **紋枯れ病** 初発段階である。吹き寄せしていた場所で発生しやすいため、圃場の状況を確認し、病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は、バリダシン液剤(収穫14日前まで)等で直ちに防除を行う。

4) **斑点米カメムシ類** 圃場周辺の雑草の発生が多い場合は、乳熟期の防除を徹底する。農薬の散布は、カメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

※薬剤の使用にあたっては、使用時期（収穫前日数など）や回数等の農薬の登録に注意する。

3. 大豆管理

大雨により多湿状態の圃場が多い。植物体の活性をあげるため、根への酸素供給が必要である。条間に滞水が無いよう排水を促し乾田化に努める。

○病害虫

- ・ハスモンヨトウは、平年よりやや少ない発生となっている。白変葉が発生している圃場では、防除を実施する。葉に大きな穴が開いた株が目立ち周辺に青虫がいる場合は、オオタバコガによる食害の可能性が高い。防除には、プレバゾン、ペガサスを用い、感受性が低いノーモルト、トレボンは使用しないこと。
- ・カメムシ類については、やや多い発生となっている。今後の発生に注意し、莢の伸長初期から子実肥大中期に防除を行う。

○雑草防除

- ・ホオズキ類やヒユ類などの発生量が多い場合は、大豆の生育抑制、品質低下や次年度以降の発生源につながるため、抜き取りを実施する。また、アサガオ類についても繁殖力が強く、効果の高い薬も無い。現在圃場内にアサガオの侵入が無い圃場でも、圃場近辺に生えているアサガオがあれば抜き取り圃場外で処分する。

令和元年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業改良普及センター

